

525

が、家族に対する愛別、情更に深きものを生ずるに到つたのではあらうか。リリースに関し、昨今頗る神経が敏感に事つてゐる事だけは十分察知でき、今迄の家族は family center に一家同棲が拘はしてゐる筈なのに、其の種の情勢変化情報のため、煩悶して居るのではある。同様の事を宗教的に敬養され自信と有つ人の老衰のため精神的に弱を事つたのは、實に同情すべきである。即ち神託の神官は、リリース殆んど不可能とせしめ強ひせらるゝに至つては、誤り降の情に堪へぬものから。僕は、岡崎老の前で、今ねらまりリリースをコレいふやう人々に勧めた。

ねから春雨、いほりと云々感だ。

三月一日(月)。

Family Center に移動すべき第一先為隊とも云ふべき人々の姓名が、昨日非公式に関係知人から通知せられ、その中からはヤ林虎一君一名だけであるが、若くは #1906 倉倉からは石塚國三郎である。

この姓名の発表とめどり位の如く村々のテーマがキャンプ内に流布せられ寧ろ滑稽さ現出して居る。然し色々の風説やら推測と符合に、此キャンプの大半は family center に移住を強制せらるゝものと考察する可からず。前記リスト中には、先きに Relocation center に在る家族も尚ほ Internet と、移住に對

526

い、"否"と記入した者の姓名が加へられ、且つ死傷者及び帰國受諾者と加へられて居るといふ。尚ほ又新任監督官が中村義男に打ち明けた話にて傳へられたるに依れば、中村義男の Internes は全部何れかへ移動せしむる手筈に事なるといふ。

午ね、古石の者が出所する處と目撃した所奇光と息を凝らしてバウツクへ走り込め、右の道と左に分岐する早急掘り込みの音が、何の方面へ出るか見届けると、橋内の西北端迄出から突然と彼等の姿と見送つてゐる後姿と同一人達が別々の不安の念に駆逐されるのであった。

早晩猛烈な降雨で痛快味たっぷりだった。

三月二日(火)。

早朝からデマ木の葉の如く揺る。デマ木にはインターの生活は意義と失ふ、然し相手の顔と眺め"デマだらう"と否定し冗談と付け加へ去るだけの餘裕がもたらねる見へるのは、何より結構と云へる。

午ね七時、J-areaの食堂で大川先生の佛敎講話を聴きし出かける、今晚は相中寒い。

三月三日(水) 早朝 21度

今日は節句だといふに、気温遽に降り猛烈に寒さだ。バウツク入口に置いてあつたバケツの水は全部凍結して凍つて居る。昨夜は碓氷岡から